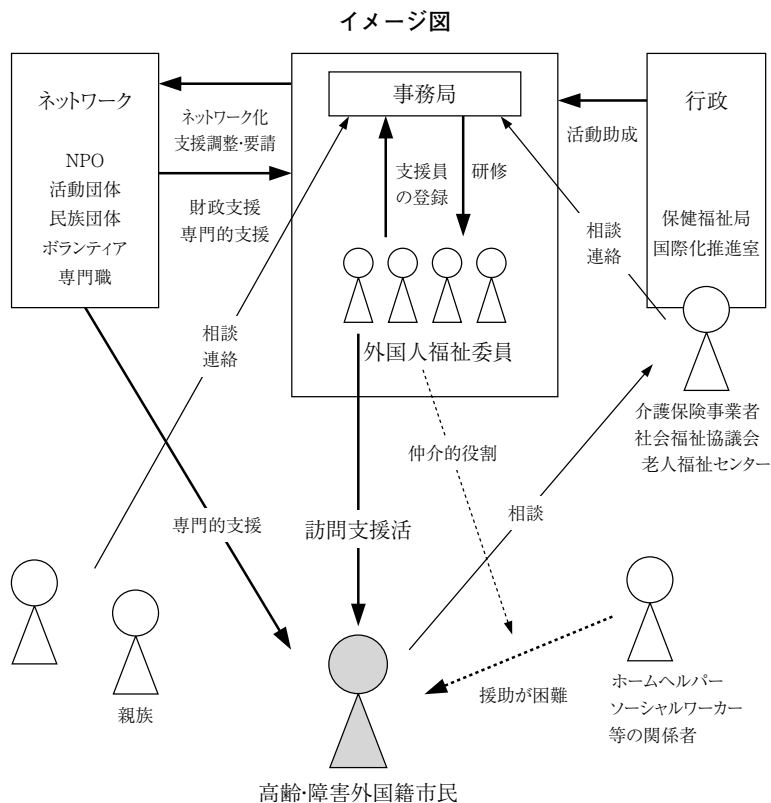


資料 2 - 2

京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア イメージ

○「外国人福祉委員」制度を有効に機能させるためには、地域社会における福祉の社会資源をネットワーク化することが重要になります。外国人福祉委員が対象者の状況を適時的確につかみ得たとしても、対象者にタイムリーで有効な支援策をとるためには、広範かつ専門性の高い内容が求められるからです。又、これまで個々ばらばらであった活動は地域や内容、対象者に偏りがみられるのも事実で、ネットワーク化はこれらの社会資源の有効活用に相乗効果が生まれるものと期待されます。



「福祉場面における言語保障について —コミュニティ通訳の現状と課題—」

日本で生活をしている外国人は増加しています。しかし、生活に必要な福祉の場面では、在住外国人等に対する言語保障はまだ進んでいません。このシンポジウムでは、このような現状について、現場に関わる方の報告とともに、今後どのようにしたら、福祉場面の言語保障の整備が行えるのかなどの課題について考えていきます。

日時：2007年12月 1 日（土） 13時—16時

場所：京都府国際センター会議室

プログラム

シンポジウム 13時—16時

当事者・通訳者の語り フィリピン語通訳者 平松マリア
コミュニティ通訳とは 多言語コミュニティ通訳ネットワーク 飯田奈美子
休憩（10分）

シンポジウム

齋藤百合子 鄭明愛 白石恵子 三ツ谷直子
飯田奈美子 尾上皓美（コーディネーター）

閉会の挨拶

シンポジウムパネラー

- 齋藤百合子 恵泉女学園大学助教。CAPP研究員。人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）モニタリングチーム共同チーフ
- 三ツ谷直子 京都市聴覚言語障害センター 施設福祉部 更生係 主任
- 鄭明愛 京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア
- 白石恵子 島根県会議員、元島根県児童相談所・女性相談センター職員
- 飯田奈美子 京都市福祉事務所中国語通訳
多言語コミュニティ通訳ネットワーク共同代表
- 尾上皓美 （コーディネーター）
中国語通訳、くろーばー事務局長
多言語コミュニティ通訳ネットワーク共同代表

*シンポジウムパネラープロフィール

齋藤百合子

人身売買禁止ネットワーク（Japan Network Against Traffic in Persons, JNATIP）運営委員モニタリングチーム共同チーフ。恵泉女学園大学人間社会学部助教。1988年に女性の家HELPにてタイ語通訳のボランティアとして関わって依頼、人身売買および移住労働に関心をもち、1995年および2000年にアメリカの国際人権NGOヒューマンライツウォッチの日本におけるタイ人女性の人身売買実態調査に関わったほか、国際移住機関のコンサルタントとして1996年に日本から帰還したタイ人女性の帰国後の課題に関する調査を実施した。JNATIPの活動では2005年の「日本における人身売買被害に関する調査研究」（2005年）、「人身売買被害者支援の連携の構築―地域、国境を越えた支援に向けて」（2007年）に携わり、政府の人身取引政策における被害者支援に関する実態調査と提言を行った。

鄭 明 愛（チョンミョンエ）

NPO法人京都コリアン生活センターエルファ職員

京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア事務局

在日外国人「障害者」の年金訴訟を支える会と在日韓国・朝鮮人高齢者の年金裁判を支える会等で、在日無年金問題解決に向けて活動中。

滋賀大学大学院教育学研究科修了京都出身。

白石恵子（はくいしけいこ）

島根県松江市に生まれ育つ。

静岡県立大学を卒業後、私立中・高の国語教師となる。

島根県に帰郷し、県職員として採用される。約20年間、福祉事務所、児童相談所、女性相談センターのCWとして勤務。'06、10月県議選出馬のため退職。

'07、4月の統一地方選で県議となる。夫、子ども3人。

三ツ谷直子

静岡県出身。五歳くらいの時に高熱により聴覚障害となる。

地元の小・中・高を経て日本福祉大学の社会福祉学部・2部に入学。

その後1部に転部。卒業後、重度障害者授産施設・栗の木寮の指導員として勤務。

京都市聴覚言語障害センター・地域福祉部に異動相談員として勤務。施設福祉部に異動

更生系の職員として勤務現在に至る。

平松マリア

くろーばーフィリピン語通訳・翻訳者、RINK通訳者、長吉高等学校フィリピン語講師・教育サポーター、連帯するフィリピン人団体KAFINコーディネーター、財団法人とよなか国際交流協会フィリピン語スタッフ、大阪府外国人相談コーナー相談員、成美高校母語指導員。株式会社 グループ・エコー通訳スタッフ (Talent: Manager)。

〈多言語コミュニティ通訳ネットワーク (mcinet) コンセプト〉

mcinetは学校や行政窓口、相談機関などの対人援助的場面での通訳を行う通訳者のネットワークです。日本にいる外国人は、外国籍や言語文化的マイノリティというだけでなく、児童と保護者、DV被害者、高齢者など生活人として多様な立場を持っています。外国人と専門家及び地域社会がより良いコミュニケーションを行えるように仲介を担うことにこの分野の通訳の特徴が挙げられます。この団体を構成する会員は、国際交流協会の相談員や教育サポーター、福祉事務所や職業安定所の通訳者、また、NPOやNGOの通訳者、通訳ボランティア、同様な活動をおこなっている個人などです。さらに、この分野に関わる研究者やコーディネーターの参加も歓迎します。

mcinetは、このような多種多様な通訳者及び通訳に関わる者が、お互いの立場を超えて繋がりあうことによって、情報交換を行い、その個々の立場により抱えている様々な問題を解決する糸口を見出し、多様な場面における通訳の専門性を確立することを目的とします。

・活動内容：事例検討会・教育サポーター調査研究・通訳研修など

ブログ：<http://mcinet.blog57.fc2.com/> 団体の活動案内や通訳に関する情報提供を行います。

・連絡先 共同代表 飯田奈美子・尾上皓美 mcinet2006@yahoo.co.jp

〈共同代表者プロフィール〉

飯田奈美子（いいだ なみこ）

京都市福祉事務所 中国語通訳者。

多言語コミュニティ通訳ネットワーク共同代表

大学卒業後、中国北京大学漢語中心に留学、その後北京の日系ホテルに就職。

日本に帰国後、2002年から現職に就き、主に生活保護分野の通訳を行う。対人援助場面における通訳環境が整っていないことに問題意識を持ち、2006年秋に多言語コミュニティ通訳ネットワークを設立。また、2005年秋に設立したパブリックサービス通訳翻訳(PSIT)学会事務局長としても活動。通訳業務の傍ら、中国帰国者における支援についての研究も行い、2006年立命館大学大学院応用人間科学研究科修士課程修了。現在、立命館大学衣笠総合研究機構客員研究員。また、2007年10月から開始される京都市行政通訳・相談事業（京都市外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業）のコーディネーターも務める。

共著：『医療通訳入門』連利博監修 松柏社 第一部2章担当

尾上皓美（おのえ ひろみ）

中国語通訳、「くろーばー」事務局長。

多言語コミュニティ通訳ネットワーク共同代表

慶應義塾大学卒業後、商社勤務、中国留学を経て、2000年から（特活）多文化共生センター大阪職員として在住外国人対象の生活相談、通訳コーディネートを担当。2002年10月退職後も、ボランティアスタッフとして同センター相談業務やDV関連事業を担当。2003年5月くろーばーの前身である「外国人DV被害者支援ネットワーク・おおさか」を設立し、外国人DV被害者のための相談事業、通訳翻訳事業、通訳者養成事業等を実施。現在、外国人女性・子どものための相談機関「くろーばー」事務局長、相談員、移住労働者と連帯する全国ネットワーク「女性への暴力」プロジェクト運営委員。

フリーランスの中国語通訳者としても法律や生活支援分野を中心に活動しており、通訳者養成にも力を入れている。

多言語コミュニティ通訳ネットワーク（mcinet）

Multilingual Community Interpreter Network

活動内容

事例検討会

目的：通訳事例を通して、通訳者の対応や通訳者を取り巻く環境について考えていくことで、コミュニティ通訳者の質の向上を図るとともに、通訳環境の整備を目指していきます。また、多言語コミュニティ通訳の専門性が身につくシステムを構築していきます。

テーマ：通訳業務、通訳倫理、通訳条件など通訳場面に関わる全て。

第1回事例検討会 2006年10月7日（土）

テーマ：「教育場面の通訳」

アドバイザー：小島祥美（愛知淑徳大学教員）

第2回事例検討会 2006年12月2日（土）

テーマ：「精神保健にかかわる通訳」

アドバイザー：村本邦子（立命館大学大学院教授）

第3回事例検討会 2007年2月3日（土）

テーマ：「生活保護にかかわる通訳」

アドバイザー：道中隆

（堺市保健福祉局理事、桃山学院大学社会学部講師）

第4回事例検討会 2007年4月14日（土）

テーマ：「労働場面にかかわる通訳」

アドバイザー：上原康夫弁護士

第5回事例検討会 2007年6月2日（土）

テーマ：「児童相談所にかかわる通訳」

アドバイザー：小川直洋氏

（大阪市中央児童相談所 児童福祉司）

第6回事例検討会 2007年10月6日（土）

テーマ：「母子保健場面での通訳」

アドバイザー：北村広美 多文化共生センターひょうご 代表

第7回事例検討会 2008年2月開催予定

テーマ：「医療場面での通訳」